

第136回 中小企業景況調査報告書(概要版)

平成 25 年 4 月～6 月実施

平成 25 年 7 月～9 月予測

福岡県商工会連合会

この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成 25 年 6 月 1 日 (土)
3. 調査対象時期 平成 25 年 4 月～6 月
4. 調査対象企業 須恵町・筑紫野市・糸島市・筑前町・田主丸町・柳川市・水巻町・みやこ町・飯塚市・大任町
5. 回答企業 147 企業 (有効回答率 98.0%)

製造業		建設業		小売業		サービス業	
企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
28	19.0%	20	13.6%	41	27.9%	58	39.5%

☑ 県下産業全体 (業況:売上額 D.I)

➡ **建設業で持ち直しの動きがあるものの、他業種は厳しい状況が続く**

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成 24 年 4 月～6 月		△12.0		10.5		34.3		△17.0
平成 24 年 7 月～9 月		0.0		△40.0		△35.0		△12.9
平成 24 年 10 月～12 月		△34.7		△25.0		△32.5		△26.7
平成 25 年 1 月～3 月		△50.0		△10.0		△72.5		△24.5
平成 25 年 4 月～6 月		△57.1		0.0		△41.5		△19.6

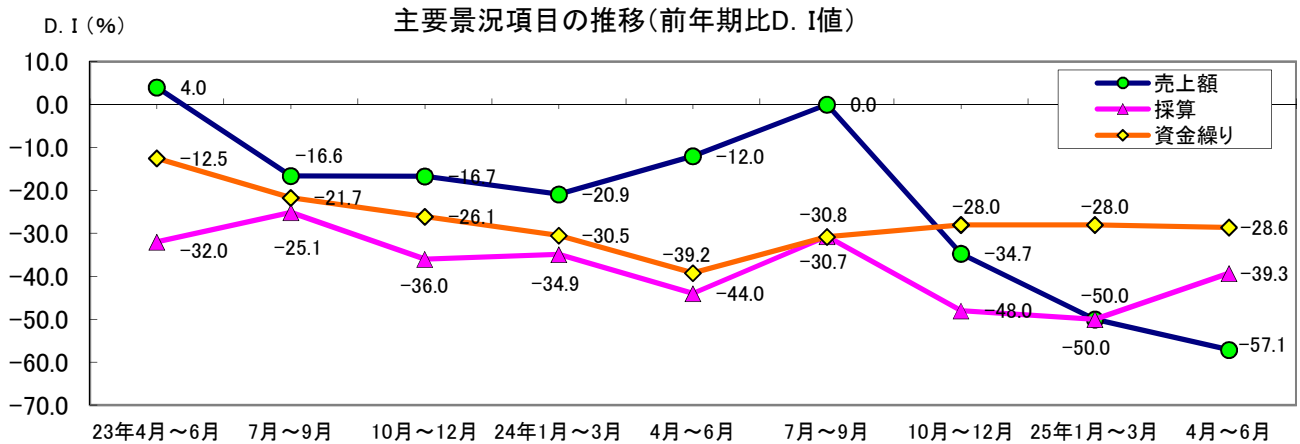
< 天気図の見方 >

D.I 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	【快晴】 +30.1 以上	【晴れ】 +10.1 ～30.0	【薄曇り】 △10.0 ～10.0	【曇り】 △30.0 ～△10.0	【雨】 △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額 D.I 値を前年同期(平成 24 年 4 月～6 月)と比較すると 13.7 ポイント悪化しているが、前回調査時(平成 25 年 1 月～3 月)と比較すると 9.9 ポイント改善している。改善の要因は、製造業が 7.1 ポイント悪化したものの、建設業が 10 ポイントの改善、小売業が 31 ポイントの大幅改善、サービス業が 4.9 ポイントの改善によって製造業の悪化をカバーし産業全体の売上額 D.I 値を押し上げている。

☑ 製造業 (有効回答数 28 企業)

➡ **好調な事例もあるが、全体的に原材料価格高騰の影響がみられる**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

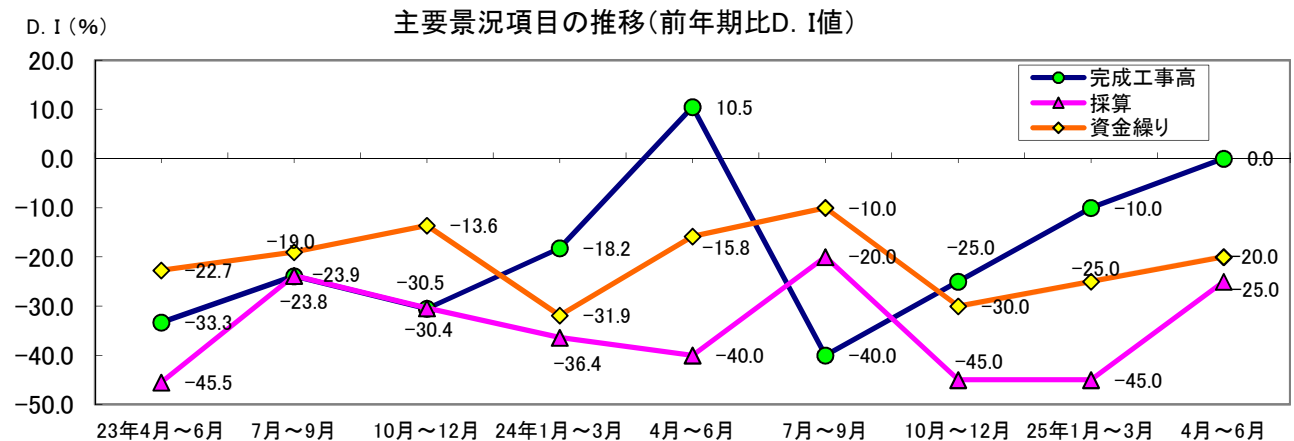
- ・ 政権の交代により景気回復と叫ばれているが、今のところ実感が無い。需要の停滞も長く続いている状態である。円安による原材料価格の上昇も気になるところである。(金属製品塗装業)
- ・ 昨年秋より業界的に落ち込んでおり、大企業は5月より持ち直したが中小企業にはまだ流れていない。単価の下し合いで取り合っている状態だが、夏ごろには戻りそうな感があるのと海外へ出る中小企業が目につく。(切削工具製造業)
- ・ 販路のウェイトが大きい北九州は製鉄業の衰退で小売店が減少し、卸すことが困難になってきている。福岡方面は好調に推移している。(酒類製造業)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	需要の停滞 25.0%	第1位	原材料価格の上昇 28.6% (+7.6)
第2位	原材料価格の上昇 20.8%	第2位	需要の停滞 17.9% (-7.1)
第3位	製品ニーズの変化 16.7%	第3位	製品ニーズの変化 10.7% (-6.0)

☑ 建設業 (有効回答数 20 企業)

➡ **消費税増税前の駆け込み需要の影響で住宅関連が好調**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

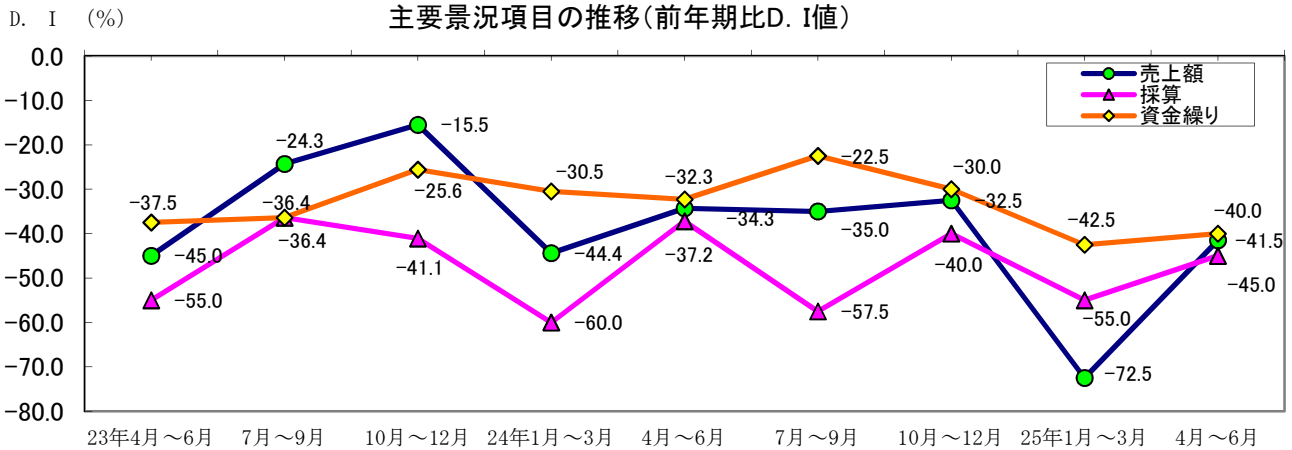
- ・ 消費税増税前の駆け込み需要で、建設業界全体が活況を呈し、技術者や材料などの品薄感がではじめている。(一般土木建築業)
- ・ 売上については増加しても下請け及び民間工事が増えるだけで利益については不変の見込み。(総合工事業)
- ・ 消費税増税前の駆け込み需要が見られるが、その後が不安である。(鉄骨・鉄筋工事業)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	請負単価の低下、上昇難 31.6%	第1位	請負単価の低下、上昇難 23.5% (+8.1)
第2位	原材料価格の上昇 15.8%	第2位	原材料価格の上昇 17.6% (+1.8)
第3位	材料費・人件費以外の経費の増加 15.8%	第3位	民間需要の停滞 11.8% (+6.5)

☑ 小売業 (有効回答数 41 企業)

➡ **個人消費に改善の兆しはあるものの、依然として厳しい業況が続く**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

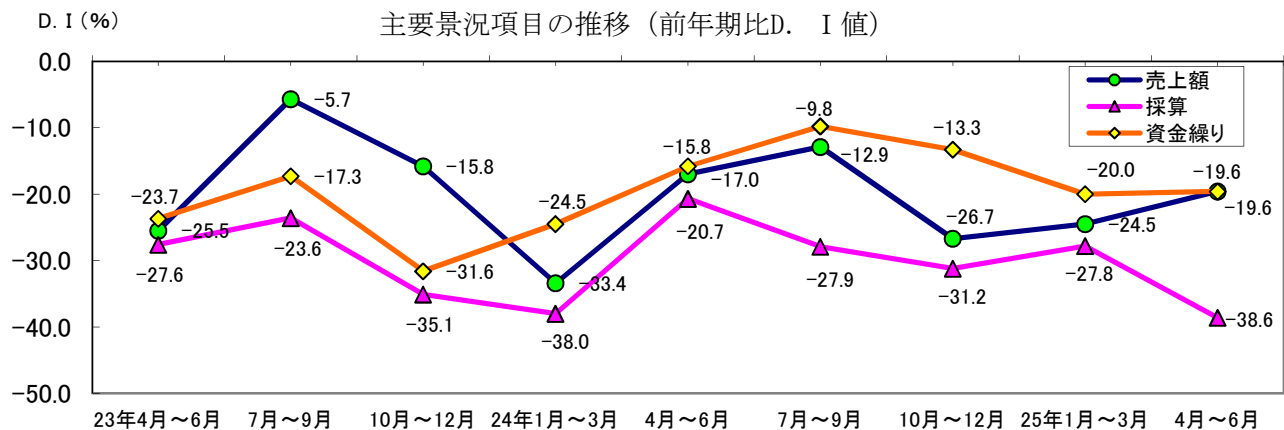
- ・アベノミクスにより景気上昇と言われていたが、商いへの影響はまだ実感としていない。影響を実感できるまでには時間がかかるであろうが、それまでに影響が下降しないかが心配である。(紙・文房具小売業)
- ・既存客の単価を上げる事で売上を上げているが、以前に比べ新規の顧客獲得が困難になっている。このまま売上が上がると思えない。(牛乳等小売業)

<経営上の問題点>

前期	今期
第1位 大型店・中型店進出による競争の激化 32.4%	第1位 大型店・中型店進出による競争の激化 20.0% (-12.4)
第2位 購買力の他地域への流出 17.6%	第2位 消費者ニーズの変化 15.0% (+9.1)
第3位 同業者の進出 8.8%	第3位 同業者の進出 12.5% (+3.7)

☑ サービス業 (有効回答数 58 企業)

➡ **電気料金の値上がり、原油価格高騰等の影響で採算が悪化**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・今期の業況の好転の背景には、現在マスコミなどで報道されている景気の上昇とは関係なく、スポット的な売上の上昇があったからであり長期的には期待できない。それより今後の材料費の値上がりに不安を感じる。(飲食業)
- ・整備料金、整備単価の低下が進み、厳しい経営環境が続いていますが、電気自動車やハイブリッド車、超低燃料費車等のエコカーの販売が伸びている。(自動車整備業)
- ・5月分より九電の使用料金の値上がりが始まり、約13%の値上がりがあり、その負担増と利用者の低下で厳しい状態である。(冷蔵倉庫業)

<経営上の問題点>

前期	今期
第1位 需要の停滞 26.8%	第1位 需要の停滞 21.6% (-5.2)
第2位 店舗施設の狭隘・老朽化 14.3%	第2位 店舗施設の狭隘・老朽化 15.7% (+1.4)
第3位 利用者ニーズの変化 12.5%	第3位 利用者ニーズの変化 11.8% (-0.7)

